

三木みらい会議 開催概要

地区名	開催日	ページ
細川地区	1 月 1 7 日(木)	1
青山地区	1 月 1 9 日(土)	2
吉川地区	1 月 2 2 日(火)	3
別所地区	1 月 2 3 日(水)	4
口吉川地区	1 月 2 4 日(木)	5
自由が丘地区	1 月 2 7 日(日)	6
志染地区	1 月 2 8 日(月)	7
三木南地区	2 月 8 日(金)	8
三木地区	2 月 1 8 日 (月)	9
緑が丘地区	2 月 2 5 日 (月)	1 0

三木みらい会議細川地区のまとめ

- 1 開催日時：平成31年1月17日（木）19時～21時
- 2 開催場所：細川町公民館
- 3 参加人数：22人（男性 15人、女性 7人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	20代	30代	40代	60代
人数	1人	16人	2人	3人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> ・自然が豊か。 ・地域の人たちで助け合 いができる。 ・蛸が多く生息している。 ・お水、お米がおいしい。 ・田んぼ、山が多く、子 供たちが安心して遊べ る。 ・地区によっては小学校 からの繋がりで小・中 学生で外で遊ぶ。 ・地域に愛着を持ってい る方が多い。 ・高速道路が2本あり、 車さえあれば便利。 ・高速バスがあり便利。 ・鉄道がある	<課題> ・用地の決まりがあって 住宅が建てられない。 ・下水道が通っていない。 ・浄化槽の設置費用が余 分にかかるので、新しい お店を開店しにくい。 ・浄化槽を設置しなけれ ばならないので新築の 家を建てにくい。 ・浄化槽の点検費用が大 きい負担になっている。 ・公共交通が不便 ・高校生の交通手段が自 転車なので、登下校時は 危険かつ不便。 ・若い人が住みにくい。 ・高齢の方が孫を学校まで送 迎しなければならず、免許 を返納できない。 ・公園が近くに無い。 ・避難場所の位置が危険、 開設状況も分からない。 ・堤防が弱くなっている ため池が多い。 ・吉川、細川といった北部地 域は人口減少が著しい。 ・消防団、草刈等の地域 行事が面倒 ・移住したら皆優しくし てくれるが、移住するた めのハードルが高い。	・若い人、子育て世代が住みやすいまち。 ・若い人が市外に出て行かないまち。 ・地域に学校を残す。 ・若い人が帰ってくるまち。 ・多世代が交流できるまち。 ・特色ある教育等、教育の中心となるまち。 ・移住してでも通わせたいと思える学校があるまち。 ・子育てキャラバン、コミュニティの中心など、地理 的に中心であることを活かした施設があるまち。 ・ゴルフが教育課程に入っているまち。 ・地域の意見が反映されるまち。	・白タクの活用をすすめる。 ・ファミリーサポートセンターの運営に地域のお年寄 りも活用する。 ・農業をやりたい若者は多いので、農業をやりたい人 と農業を任せたいお年寄りとのマッチングを行う。 ・都市部へのアクセスの良さ等、三木の良さを発信す る。 ・移住のお試し期間を設ける。 ・現在の高齢者大学を、子どもも使えるようにして、 子育てキャラバン第二の拠点にする。 ・防災意識を高める。 ・地域差の少ないまちづくりを進める。 ・村の中で、移住者受け入れの意思統一をする。	・地域の方が講師となって、三木の特産に特化した職 業学校を設立してほしい。 ・ファミリーサポートセンターの値段を下げ、高齢者 も利用できるようにしてほしい。 ・子供がまた三木に戻って、子育てをしたいと思える ような、子どもを中心とした教育、考え方をしてほ しい。 ・バスの循環路線を作してほしい。 ・大雨の際にため池の状況を1か所で把握できる仕組 みを作してほしい。 ・三木に帰ってくる方への補助等を行ってほしい。 ・教育委員会の方針と違わない総合計画を策定してほ しい。



三木みらい会議 青山地区のまとめ

- 1 開催日時：平成31年1月19日（土）18時～20時
- 2 開催場所：青山公民館
- 3 参加人数：23人（男性 11人、女性 12人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代
人数	1人	5人	8人	5人	3人	1人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
＜自慢＞ ・乳児医療が中学生まで無料である。 ・各丁目に広い公園がある。 ・地域のコミュニティが活発である。 ・静かで住みやすい。 ・高齢者にとって住みやすい。 ・都会過ぎず田舎過ぎない。 ・空気や水が綺麗である。 ・公園が広い。 ・ゴルフ場がある。 ・ホースランドパークがある。 ・施設の駐車場が無料で広い。 ・金物などの特産物がある。 ・治安が良い。 ・県外から人が来るイベント（金物まつりなど）がある。 ・インターチェンジなど、道路網に優れている。 ・風水害に強い。 ・幼稚園から大学まで揃っている。 ・歴史のあるまちである。	＜課題＞ ・児童館があると良い。 ・働いている人にとって交通が不便（本数が少なく、最終が早いバス）。 ・特産物をアピールしている実感が無い。 ・おみやげに適したものが無く、アピールしにくい。 ・産科が無い。 ・祭以外のときは市に賑わいが無い。 ・娯楽施設が無い。 ・城跡周辺の道が不便である。 ・市役所の入り口が暗い。 ・職員の顔が怖く、暗いので、市役所に行くのが怖いという人もいる。 ・優れた道路網が活用されていない。 ・市内の道が不便 ・歴史のまちであることをPRできていない。	・高齢者を優遇する施策ではなく、若者が暮らしやすくなる施策が多いまち。 ・若者が就職できる仕事があるまち。 ・再雇用の制度や高齢者の働き口があるまち。 ・企業誘致が進むまち。 ・飲食店の送迎など、個人事業主が経営しやすいまち。 ・服屋等、子育て世代が使いやすい施設があるまち。 ・小学生、中学生、高校生の居場所があるまち。 ・突出した長所があるまち。 ・森林公園、クラフト館に、校外学習をはじめとして多くの人が来るまち。 ・定年後の金物職人が講師となって、体験活動ができるまち。 ・市街地にもデマンド交通が発達しているまち。 ・スポーツ合宿ができる宿泊施設があるまち。 ・ビーンズドーム等を活用したり、ゴルフ、ホースランドパーク、テニス等、スポーツ振興の盛んなまち。 ・市役所の機能を公民館に移し、地域の声がすぐに反映されるまち。 ・学校教育の一環としてゴルフができるまち。 ・子どもや子育てをする親が暮らしやすいまち。 ・行政が自治会に歩み寄って意見を聞き、施策に反映させるまち。 ・三木 IC で降りた他市の人に三木の良さをPRできるまち。	・市民と行政が協働し、情報発信をする。 ・行政との関わり（消防士の体験など。）を学校でできるよう、PTA 等で意見を出す。 ・新しい施設ができたときに PR できるよう回覧板などで周知する。 ・SNS 等で三木の魅力を、外国に向けて発信する。 ・自動車の同乗を誘いかける。 ・地区で助け合いができる目印を作る（同乗など）。 ・Uber（ウーバー）へ参画する。 ・YouTuber の事業を立ち上げて、地域が動画制作に協力する。	・乳児医療を高校まで無料にしてほしい。 ・中学校まで給食費無料にしてほしい。 ・市役所の庁舎を宿泊施設にしてほしい。 ・大型の商業施設があってほしい。
				

三木みらい会議 吉川地区のまとめ

- 開催日時：平成31年1月22日（火）19時～20時
- 開催場所：吉川町公民館
- 参加人数：38人（男性 33人、女性 5人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	30代	40代	50代	60代	70代
人数	1人	7人	11人	14人	5人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
・治安が良い ・地域に愛着がある ・災害が無い ・特産品が多い（苺やピーマンなど） ・観光施設が多い（よかたん） ・黒滝がある ・車での移動が便利 ・山田錦の生産量 ・ゴルフ場の数 ・高齢者が元気（高齢者のサロン） ・子ども同士の仲が良い	・公共交通が不便 ・ゴルフ場経営が不安 ・地域にスーパーなどが無く、買い物が不便 ・外国人との共存 ・空き家対策 ・産業の後継者不足 ・子どもが通学するには危険な道路が、長く放置されている ・雇用が少ない ・産業団地計画が放置されている ・災害に対する警戒心が低い ・携帯電話の普及に伴い、固定電話が通じない家庭が増えている	・幼稚園、小中学校からの意見を取り入れるまち ・健康寿命が日本一長いまち ・突出した長所があるまち ・若者が帰ってくるまち ・子ども同士が仲の良いまち ・大人も子どもも交流できるまち ・大人と子どもがお互いを知っているまち ・子どものことを考えた学校再編を行い、希望の持てる教育ができるまち ・災害に強いまち ・情報を一気に伝える手段があるまち	・地域の自慢や課題をみんなで見直す（地域で考える、伝える） ・家庭に力をつける ・一人ひとりが力をつけて、地域の成長（人、もの、金）に繋げる ・近隣同士で声かけをするなど、地域で活発にコミュニケーションをとる	

三木みらい会議別所地区のまとめ

- 1 開催日時：平成31年1月23日（水）19時～20時30分
- 2 開催場所：別所町公民館
- 3 参加人数：25人（男性 16人、女性 9人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	20代	30代	40代	50代	60代
人数	2人	13人	4人	4人	2人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
＜自慢＞ - 自然環境が良い - 美嚢川の桜並木が綺麗 - 別所地区は三世代交流の行事が充実している - 温泉が多い - 中学校まで給食がある - 別所地区は他地域と比較してコミュニケーションが盛んである	＜課題＞ 10年後の人口減少が著しい - 美嚢川の桜並木がPRできていない - 移住・定住のPR動画があまり知られていない - 子どもを標的にした犯罪が起こっている - 三木城址への案内看板が無い - 史跡展が地味で、アピールできていない。 - 学校給食が質素、おかずが少ない - 普段のホースランドパークの利用者が少ない - 三宮まで1時間かかるので、「遠い」イメージがある - 子どもが屋内で遊べる施設が無い - 休日の交通量は多いが、道路が狭く暗い箇所があり、日没後に下校する中学生にとっては危険 - 新聞で三木のイベントが取り上げられないことがある - 子どもが少ない - 婦人部が無くなった	- 周辺市と連携して防災ができるまち - 地域に防犯カメラがあるまち - 学校給食が美味しいまち - 製造業が盛んなまち 「災害に強いまち」をアピールして、多くの人が移住するまち - 災害関連用品の生産が盛んなまち - ホースランドパークや森林公園を活かした、自然と触れ合えるまち 「田舎で都会暮らし」ができるまち - 雨が降っても、子どもが遊べる設備を持った商業施設があるまち - 外国人にも優しいまち - 誰とでもコミュニケーションがとれるまち - 交通事故などから子どもを守るまち（スクールゾーンの整備など） - メディアで地域の情報（良いところも課題も含めて）が発信されるまち - 子どもが三木市への愛着を持てるような教育をするまち - さまざまな人、団体から意見を聴取できているまち - 子どもがいない女性の意見が聞けるまち	- 子どもの安全のため、企業が地区の中に、自社の名前が入った防犯カメラを設置することで、地域の安全につながり、企業にとっては宣伝となる - 近所の子どもたちと日頃からコミュニケーションをとる（挨拶、声かけなど） - 子どもに、小さい頃から三木市のことを教えるなど、地元のことを好きにさせる教育を施す - 団体の垣根を越えて多様な意見を聞く機会を設ける - 日頃から近隣でコミュニケーションをとる	- 栗生線に特急を導入して、三宮から電車を使って30分ほどで行けるようにしてほしい - 子どもも無料で参加できる地域づくりのワークショップや講座を開催してほしい 2人目以降の子どもへの補助をもっと手厚くしてほしい
				

三木みらい会議 口吉川地区のまとめ

1 開催日時：平成31年1月24日（木）19時30分～21時

2 開催場所：口吉川町公民館

3 参加人数：12人（男性 5人、女性 7人）

※市3人、コンサル2人参加

年齢	30代	40代	60代
人数	4人	7人	1人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> ・祭りがにぎやか ・三木市は意外と知名度があり、特に建築関係の仕事をしている方には金物のまちとして有名 ・古式鍛錬などは若者にとっても魅力的 ・全国的に有名な山田錦を栽培している人が多い ・よかたんが夜まで賑わっている ・無料の駐車場付きの公園が多い ・世代間におけるタテのつながりが強い ・学校では、学年をまたいだつながりがある ・高齢者同士、ヨコのつながりが強い ・学校のクラスの子どもは、お互いの親兄弟を知っているほど関係が密接で、いじめが起こりにくい環境	<課題> ・街灯が少なく夜道が暗い（旧道は特に） ・国道沿いに商業施設が固まっているが、そこ以外には無いので買い物不便 ・通学、アルバイト時など、交通手段が無いので子どもの送り迎えをしないといけない ・子どもが歩いて行ける距離に図書館が無い ・吉川方面に行く道路は歩道が無く路側帯が狭いので、自転車での移動が危ない ・無料で使える駐車場付きの公園があるなどの自慢はあるが、口吉川の地域に住みたいと思ってもらえるような魅力は無い ・地域に病院が無い	・幻の日本酒に使われるような、質とブランドのある山田錦を生産するまち ・子どもがひとりで動ける環境が整っているまち ・子どもが将来、地域に帰ってきたいと思えるような素晴らしい思い出が作れるまち ・子どもが安全に自転車で移動できるまち ・人口がもっと増えて、大型の商業施設が建つまち ・山田錦を栽培していない田んぼを復活させて、農業で雇用を創出するまち ・先進的な技術を活用した農業ができるまち ・日本酒造り体験ができるまち	・ふれあいバスの運行を充実させる ・山田錦のブランドを生かした企業とのコラボレーションのアイデアを出す	・口吉川に湧いている冷泉を活用して無料で毎日温泉に入れるように整備してほしい ・違う路線のふれあいバスがしっかり連絡させるなどして、交通をもっと便利にしてほしい



三木みらい会議 自由が丘地区のまとめ

1 開催日時：平成31年1月27日（日）10時～11時30分

2 開催場所：自由が丘公民館

3 参加人数：29人（男性 10人、女性 19人）

※市3人、コンサル2人参加

年齢	30代	40代	50代	60代	70代
人数	11人	12人	3人	1人	2人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> - 三木金物や歴史的建造物など、観光資源が多い - 中学生までの子どもの医療費が無料 - 子育ての支援センターが充実している - 災害が少ない - 祭りが賑やか - 子どもが無料で遊べる公園が多い - 自然が豊か - 車を運転しやすい道が多い - 車があれば暮らしやすい - 公民館での講座の種類が多く、料金も安い - 静かなまちで環境が良い	<課題> - 市内に雇用が少ない 1度市外に働きに出ると、帰ってこない - 車を持っていないと移動に困る - 保育園に入園待ちがあり働けない - 三木の祭りのPRが足りない - 歩道が無いので道を歩くのが怖い - 自由が丘中学校近くは特に街灯が少なく夜は暗い - 犯罪者が集まりやすい条件が揃った場所がある - 子どもの下校時、不審者の被害や交通事故に遭わないか不安である - 放課後に子どもだけで遊べる公園が少ない - 放課後に見守りの目が無い - 人の目の垣根隊の参加者が少ない - 賃貸物件が少ない - エレベーターが無い物件が多いので、高齢者が移住しにくい - 三木市内から通える進学先（高校、大学）の選択肢が少ない - 三木市のTwitterアカウントが多すぎるので、どれを見ればよいかわからない - 電車代が高い - 買い物をするためには遠出しなければならない	- 市内に雇用があるまち（人が集まりやすくなる） - 交通面において安全なまち。 - 子育てをする環境が整っているまち。 - 登校時だけではなく、下校時も子どもの見守り環境が整っているまち。 - 学校が終わった後に、子どもたちが安全に外で遊べる公園、広場があるまち - 子どもが犯罪に遭わないまち - 高齢者が子どもたちを見守るまち - 企業誘致が進んでいるまち - 外国人との共存ができるまち - 自然が残るまち - 自動車が無くても暮らしやすい、交通の便利なまち - 子どもの進学先の選択肢が多いまち（例：三木に住んでいても神戸の学校へ通える）	- 地域の高齢者が、人の目の垣根隊へ参加する（参加率の高い方には市から表彰などしてほしい） - SNSで祭りやイベントの情報を発信する - 公民館活動への参画 - 神戸電鉄を残すために、市民が神戸電鉄を利用する	- 三木の祭りを全国的にPRしてほしい。 - 三木市に3世代で住む人へ補助金を出してほしい - 学校を再編した上で、登下校時のスクールバスやデマンド型交通を充実させてほしい



三木みらい会議 志染地区のまとめ

- 1 開催日時：平成31年1月28日（月）19時～20時30分
- 2 開催場所：志染町公民館
- 3 参加人数：30人（男性 16人、女性 14人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代
人数	1人	11人	10人	3人	3人	2人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> 10地区それぞれにコミュニティが形成されている - 志染は三木市で最も神戸市に近く、ICがある - 車があれば便利に暮らせる - ICが市内に3つある - 子どもの医療費無償化など、子育てに関する施策に予算をしっかりと使っている - 高齢者が無料で利用できるみっきいバスが運行されている - 志染では、住民が集まる会議への出席率が高い 山、川、田んぼがあり、自然が豊かなところ - 志染の学校は少人数学級で教育が行き届いている - 志染の学校はPTA 会員が特に熱心に活動している - 歴史的な遺産が多い - 志染には3世代で暮らしている家庭が多い - 志染の子どもは感性が豊か - 伝統的な行事（祭りなど）がある - ゴルフ場が多い - 災害が少ない - 無農薬の野菜を栽培しているので食べ物安全 - お米がおいしい（きぬひかり） - 市外からも人が集まる、みきっこうランドがある - 観光客が多い - 空気が綺麗 <課題> - 地区ごとの人口のバランスが崩れている - 志染地区の高齢化が進んでいる - 志染には子どもが遊びに行ける距離に公園が無い - 山の手入れができていないので、山遊びができない - 人口減少や高齢化により、地域の人が学校教育をはじめとした子育てに関われなくなっている - 近所付き合いが煩わしい - 車が無いと不便 - 地域に住みたいと思える魅力が無い - 農業従事者が多いが、収入が少なく、安定しないので生活が苦しい - 公共交通が不便なので、大学に通うには下宿しなければならない - 雇用が少ない - 核家族化が進んでいる - 志染地区の県道沿いの田んぼは車道に直接面しているので、手入れが大変な上に危険 - 産科が無い - 夏場に水で遊べる公園が無い - 休日に学校で遊べない - 志染地区の中に同級生が少ない - 公共交通の本数がどんどん減っているので、車を運転できなくなった時が不安 - 情報公園都市における三木市民の雇用が増えていない - 町内の植木の手入れが行き届いていない - 道路から志染町公民館への入り口が危険 - 志染は公共施設が不足している。		- 自然の整備がされているまち - 三世代が住み続けられるまち - 昔のように子どもが多く、子どもが自然の中で遊べるまち - 子どもたちが地元に残るまち - 子どもたちが地元へ帰ってくるまち - 生活に必要な施設が揃っているまち - 農業で暮らしていけるまち - 田舎暮らしや両親との近居を目的に市外から人が移住するまち - 子どもの道德教育が充実しているまち - 子育てをする親同士が交流できるまち - 公共交通が充実したまち - 観光客が訪れるまち - 子どもが遊べる公園があるまち - 車に乗れなくなっても暮らしていけるまち - 施設間のアクセスを良くして、相乗効果で盛り上げるまち - 住民同士で助け合えるまち - 公共施設が充実したまち - プロゴルファーの育成が盛んなまち - 観光施設が多いまち - 安全な食べ物をつくるまち - 景観の良いまち - 三木で育った子どもが、将来地元で働ける雇用があるまち	- 志染の好きなところ、三木の好きなところを地域や家族で話し合う機会を持つ - 子どもに地元の良さなどを伝える - 地域の大人が川遊びや山遊びを子どもに教える - 活性化された他の地域を見たり、他の市民に見に行くのを勧めて、その地域がどのように活性化したのかを研究すると同時に、三木の良さを再認識する活動を行う - 安全な食材を生産することに努める - 買い物に行く際は、車を運転できない高齢者も乗せて買い物に行くなど、地域で助け合う	- 三木総合防災公園にも遊具を設置して、みきっこうランドの第2の拠点としてほしい - 地区によっては人口が少なく、コミュニティが成立しなくなっているところもあるので、行政区画を見直してほしい - ボランティアを活用してコミュニティバスの本数を増やすなど、コミュニティバスを利用しやすいようにしてほしい - どの取組も、早く実行に移してほしい

三木みらい会議 三木南地区のまとめ

1 開催日時：平成31年2月8日（金）19時～20時

2 開催場所：三木南交流センター

3 参加人数：15人（男性 13人、女性 2人）

※市3人、コンサル1人参加

年齢	40代	50代	60代	70代
人数	5人	2人	4人	4人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> •それほど困っていること、不便なことはない •子育てしやすい公園が多い •金物など有名な特産品がある •災害に強い安心なまち •自然が多い •高速道路網が充実している •食べ物がおいしい •三木市内では食品の賞味期限偽造などの事件が無いので、安全で安心できる •安心して暮らせる •医療費が無料 •鶯の声が聞こえる •予防接種の助成などが充実している •田舎過ぎず、都会過ぎず程よい感じが良い •図書館に行きやすい（駐車場が広い） •地理的に気候が良い •防災公園など広く、平らな施設がある	<課題> •進歩が早い世の中についていけない高齢者が多い •兵庫県の市町村の中でも知名度が低い •「災害に強いまち」のPRができていない •バスなどの公共交通が不便 •小売店や病院が徒歩で行ける距離に無い •産科が無い •子どもが授業を真面目に受けず、学級崩壊している学校もある •学校でエアコンなどの施設整備が進んでいない •高齢者が暮らしにくい •車が無ければ不便 •神戸電鉄が通っていない地域は不便 •道路、歩道が狭く危険 •側溝にふたが無く、危険 •両親が、タクシーチケットをもらったが使いにくい。（免許の返納ができない） •公園の遊具施設が、みきっこランド以外充実していない。 •志染の5差路が危険 •歩道橋が冬場に凍って危険 •幼稚園のお預かりがないので、働いている女性は、保育園に行かせるしかない。 •みきっこランドの駐車場が狭い	•高齢者が世の中の技術進歩に対応するための学習を受けられるまち •使用料などを払わなくても利用できる、人々が集える空間があるまち •ゆとりがあり、趣味などに使う時間を充実させられるまち •誰もがやりたいことを見つけられるまち •高齢者や主婦（主夫）などがいきいきしているまち •高齢者も働いてお金を稼げるまち •若い人が、高齢者と仲良くなつがるまち •神戸電鉄がいつまでも存続しているまち •高齢者の持つ経験・知識が活躍するまち •短時間の仕事などを高齢者や主婦（主夫）がシェアワークなどをしながら働き、産業を支えるまち •多世代が支え合えるまち •小学生1年生から6年生まで仲の良いまち •先生の目が行き届く教育環境のあるまち •コミュニティの繋がるまち •安全・安心なまち •買い物に困らなく、医療が受けられるまち •映画館などの商業施設があるまち	•若い世代の人が高齢者にインターネットを教える。 •高齢者がインターネットを活用して商売や趣味の活動をする。 •廃校・廃園になった建物を使った漫画資料館をつくるならば、これまで集めてきた漫画を提供することができる。 •経験、知識が豊富な高齢者に講師となっていただいて子どもの教育へ携わってもらう。 •市民の簡単な作業の依頼に対して、その作業ができる高齢者や主婦（主夫）といった方たちを斡旋してくれるNPO法人を設立する。 •子育て情報の共有ができる •PTA活動	•幼稚園を無くさないでほしい •三木東校と幼稚園の連携など残してほしい

三木みらい会議三木地区のまとめ

- 1 開催日時：平成31年2月18日（月）19時30分～21時
- 2 開催場所：中央公民館
- 3 参加人数：29人（男性 27人、女性 2人）
※市3人、コンサル2人参加

年齢	30代	40代	50代	60代	70代
人数	2人	14人	7人	5人	1人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> ・災害が少ない ・ゴルフ場が多い ・播磨国風土記が残っているなど、歴史がある ・保育料が安い ・大きい公園ができた ・金物古式鍛錬が残っている ・まちが静か ・空気がきれい ・星がきれい ・住みやすい ・神戸市に近い ・人柄がよい ・自然が豊か	<課題> ・三木市の魅力を発信できていない ・大きなショッピングモール、ショッピングセンターが無い ・山田錦のPRをできていない ・公共交通の連絡が悪く不便 ・昼間の神戸電鉄の本数が少ない ・三木市の良さは、若い人にとって魅力的ではない、もしくは知られていない ・自営業者は、子どもを希望する保育園に入りにくいという状況がある ・道路が悪い、狭い、直線道路が少ない ・子どもを連れて遊びに行くところが無い ・土地が高く、飲食店の経営が長く続かない ・市内の山側は不法投棄が多い ・駅前に店が少なく、賑わいが無い ・市の認知度が低い	・時間によらず公共交通の本数が多いまち ・親の職業によらず子どもを保育園に預けられるまち ・災害が起きたときにすぐに対応してくれるまち ・特別指定区域制度が拡充されたまち ・市外から人が集まる施設を建てられるまち ・災害が発生したときに、障がいを持った方でも安心して避難できるまち ・女子プロ野球を振興するまち ・若い人が楽しめる娯楽施設があるまち ・市内で日本の伝統的音楽のコンクールを開き、全国から参加者が集まるまち ・多くの市民が参加できる市民球技大会があるまち ・エフエムみっきいで「おきふる※」のように色々な人が聞いてくれる番組やPRをするまち ※沖縄のふるさと納税をPRし応援する、30分間のラジオ番組 ・三木市出身のアーティストをPRするなど、芸術を振興するまち ・自転車道が整備されていたり、電車に自転車と一緒に乗られたりするなど、自転車で移動しやすいまち ・大企業があるまち ・子どもが祭りに集まるまち ・駅前が賑やかなまち ・三木城が再建されているまち ・リサイクルをする人が得をするまち ・交通の連絡が良く、便利で栄えているまち ・バスを使えば1時間で神戸まで通勤できるまち ・若い人が地域に残る、帰ってくるまち ・三木に住みたい、住んでよかったと思えるまち ・車道が整備されたまち ・中学生、高校生がゴルフをできて、プロを目指せるまち ・不法投棄が無い、きれいなまち ・直線道路や広い道路があるまち	・地域で三木みらい会議のような懇談会を、もっと小さな単位で行う ・子どもに地域の魅力や歴史、自分の家の成り立ちなどを伝える ・まちの再生を住民が一緒になって考える ・積極的に神戸電鉄を利用する ・行政と一緒に祭りの振興や伝統の継承をする ・「^{ハッシュタグ} # 三木市自慢」など、SNSでまちの自慢をする	

三木みらい会議 緑が丘地区のまとめ

1 開催日時：平成31年2月25日（月）19時～20時30分

2 開催場所：緑が丘町公民館

3 参加人数：16人（男性 6人、女性 10人）

※市3人、コンサル2人参加

年齢	20代	30代	40代	50代
人数	1人	1人	8人	6人

① 三木市の自慢や課題		② どんな地域にしたいという夢	③ ②で出た夢を実現する上で、地域でできること	④ 地域の思い
<自慢> - 緑が丘地区はスーパーマーケットが多くて便利 - 無料駐車場がある公園や広い公園が多い - バス1本で神戸市に行ける - 人が優しい - 三木市は公民館が多い - 緑が丘は文教地区と言われている、知的な人が多い - 空気がきれい - 校庭が広い - まちが静かで過ごしやすい - 土地の高低差が少ない - 市民で作り上げた子育てをしやすい環境がある - 治安が良い - 個人商店で、二代目の経営者が経営方法を変えるなどの工夫をして、繁盛している店がある	<課題> - 三木市の中心地がはっきりしてない - 市内の雇用の絶対数が少ないので若者が住めない - 緑が丘に児童館が無い - 緑が丘に地域の人たちが集まれる自治会館が無い - 市内の企業も求人を出しているが、労働条件で市外に劣るので市外に就職する人が多い - 小児科が少ない - 粟生線の利便性が良くない - 昔と比べて都心の住宅の方が安くなったため、都心回帰が起きている - 三木市内の施設やイベントの情報が入手しにくい - 市民の活動の中で主導権争いのようなものがあり、協力できないことがある - 緑が丘地区に本屋が無い 「金物のまち」というテーマが活かされていない - 空き家が多く、街並みがきれいではない	- 地域の人たちが集まれる場所があるまち - 子どもが帰ってきたいと思えるまち - 大人も住み続けたいと思えるまち - 住民全員が何らかの役割を持っているまち - 地域で行っているボランティアなどの取組が市民の収入につながるまち - 学校の校庭を多目的に活用できるまち - 世代間の交流が活発に行われるまち - これからの課題である空き家の増加、外国人の流入に対応したまち - アプリなどで三木のイベント情報を入手できるまち - 市民の取組や思いを行政が後押ししてくれるまち - 同じ思いを持つ市民が協力して活動できるまち - 公共交通の便が良く、住みやすさに特化したまち - 子どもの教育に力を入れているまち - 働いている人でも地域活動に参画できるまち - 行政が主となって「金物のまち」をアピールするまち - 空き家を改修して、地域の人たちが集える場として活用できるまち - 日本一のまち、日本一があるまち - 規制緩和などが行われ、市民が自由に活発に活動できるまち。 - おしゃれで落ち着いたカフェなどがある、きれいなまち - 地域の人材を生かせるまち - 地域住民の横のつながりが強いまち	- 三木のことを知ることができるアプリをつくる、使う。 - 三木市内で行われるフリーマーケットやマルシェなどで高齢の方に手作りのものを売ってもらうなど、地域のイベントに参画してもらう。 - 多世代を巻き込んだ子育てコミュニティをつくる。 - 働いている人も、土日は地域の活動に参加し、地域との関わりを持つ。 - 地元で頑張っているお店を応援するために、積極的に利用する。 - 地元の魅力をSNSなどで発信する。 - 地域でイベントを企画し、そのイベントに参加する。	- 市民の活動に行政が資金補助などを行い、活性化させてほしい。 - 地域住民が集える拠点を整備してほしい。 - 市民活動は活発であるが、団体間の連携がうまく取れていないので、上手くいくような仕組みを行政でつくってほしい。
				